

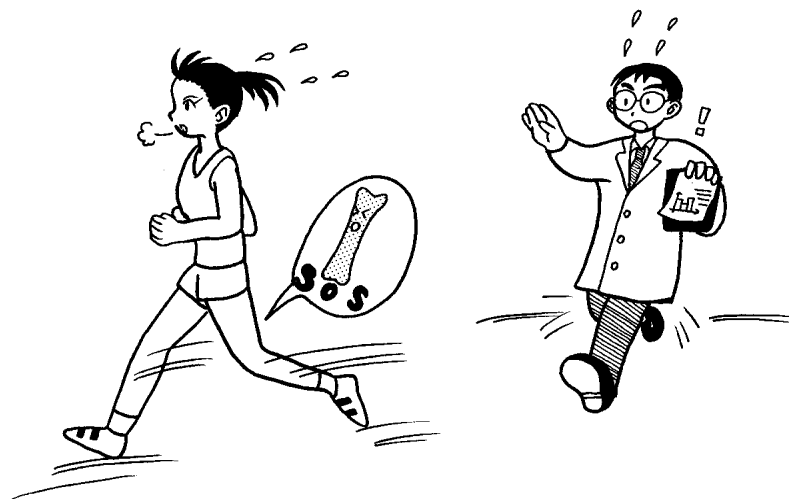
女子長距離ランナーの骨塩量および骨代謝マーカーと疲労骨折に関する研究

研究代表者 順天堂大学 桜庭 景植

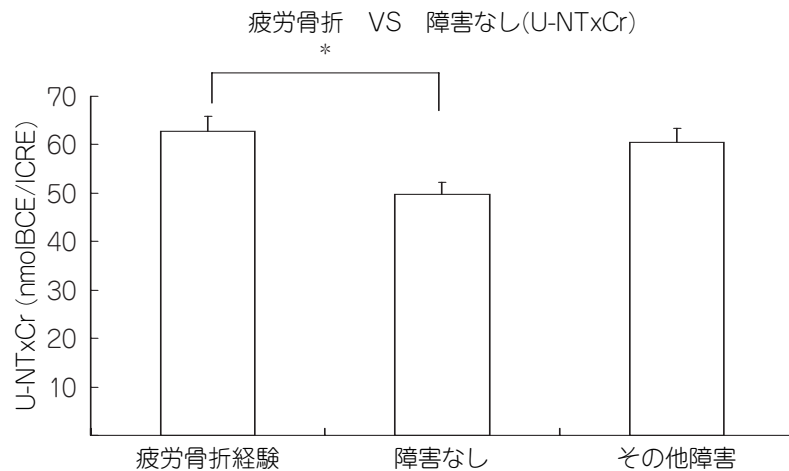
運動をすると一般的には骨塩量は増加しますが、女子長距離ランナーでは無月経などから骨塩量が低下することがあり、疲労骨折の発症率も高いとされています。この研究では、55名の大学陸上部女子長距離ランナーを対象に骨吸収マーカーである尿中Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド (NTx) を測定し、骨塩量、体組成、走行距離、主観的練習強度、コンディション、生理の有無、疲労骨折の有無との関係を検討しました。

尿中NTxは大腿骨頸部の骨塩量と負の相関がみられ、疲労骨折を有する群、生理異常群ではそうでない群に比べて高い値を示しました。また疲労骨折あるいは過労性骨膜炎の受傷者の尿中NTxを経時的に測定したところ、11名中6名で受傷前後に高い値を示しました。

このことから尿中NTxは過労性骨障害の予防や早期発見に有用なマーカーとなる可能性が考えられました。



尿中N-テロペプチド(NTx)は過労性骨障害の予防や早期発見に有用なようだ



*:p<0.05